

社会保障審議会
後期高齢者医療の在りかたに関する特別部会
2006.11.06

後期高齢者医療と地域包括ケアシステム
医療と介護の一体的提供の必然性
在宅医療をにのける地域医療連携とケアマネジメント
The OMA method on long-term care management programs

片山医院 片山 壽
(尾道市医師会 会長)

**尾道市のプロフィール
(2006年3月)**

人口 **152,746**人

2005年3月 2町を吸収合併
(医師会は従来から1市2町)
2006年1月(島嶼部1市1町を吸収)

高齢化率 **27.55%**

医師会員数 約270名
+ 因島医師会40名
医療機関数 113+18

急性期病院 3+1
(旧尾道市域)
合計急性期病床数(2次救急対応)
1117床
(尾道市医師会救急蘇生委員会対応)

JA尾道総合病院: 447床
尾道市立市民病院: 330床
公立みつぎ総合病院: 240床

	総人口 (2000 → 2006)	高齢化率 (2000 → 2006)
尾道市	94,151 → 92,073	22.28 → 25.28
御調町	8,310 → 7,977	28.34 → 30.79
向島町	17,223 → 16,155	24.33 → 29.14
因島市	29,496 → 27,219	27.07 → 31.37
瀬戸田町	9,991 → 9,322	28.25 → 33.33
合計	159,171 → 152,746	24.20 → 27.55

高齢者医療・介護のシステム化を目指す

高齢者医療の現状

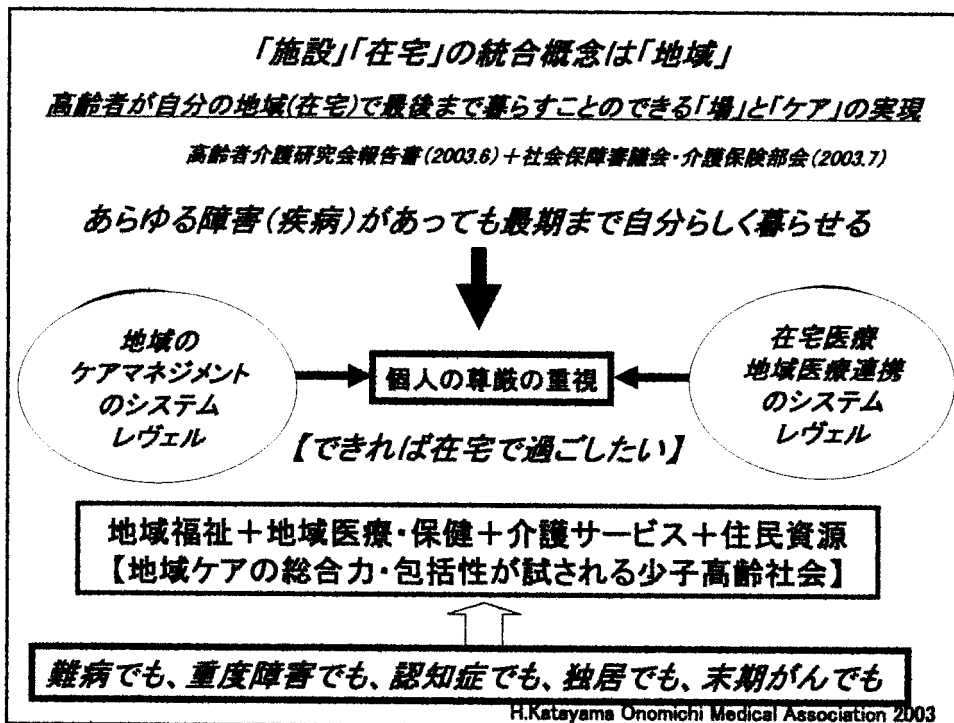
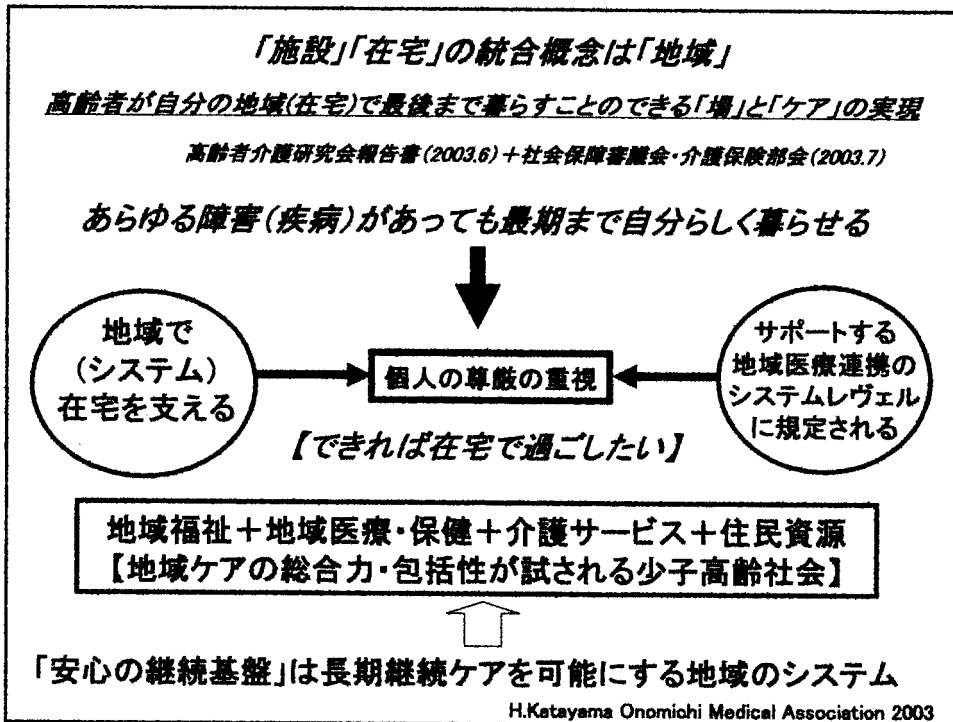
片山医院(無床診療所・付帯事業所なし)

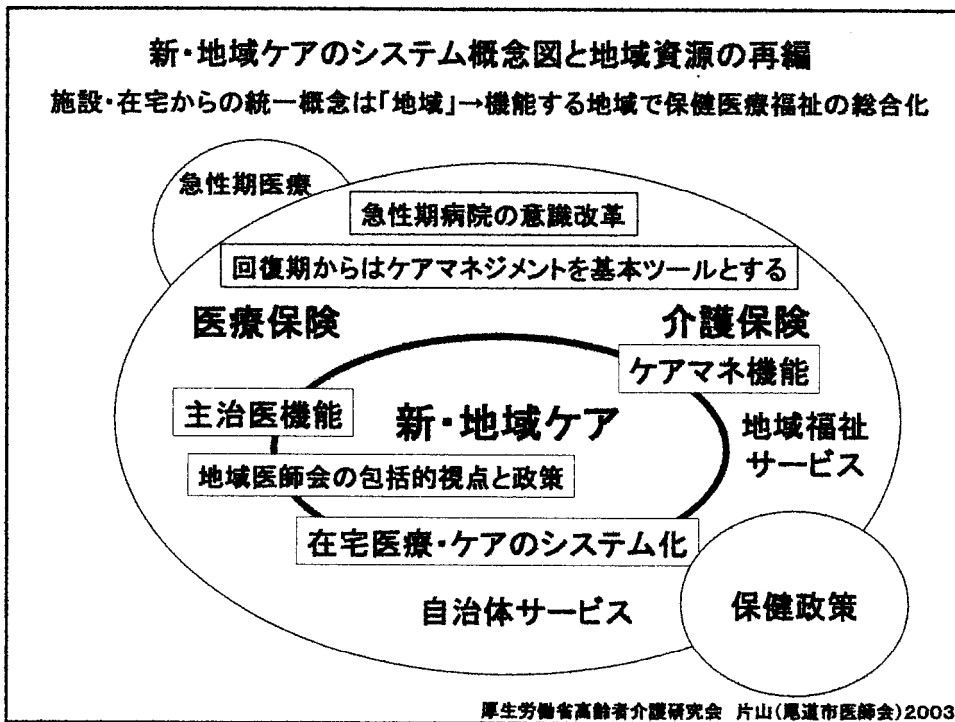
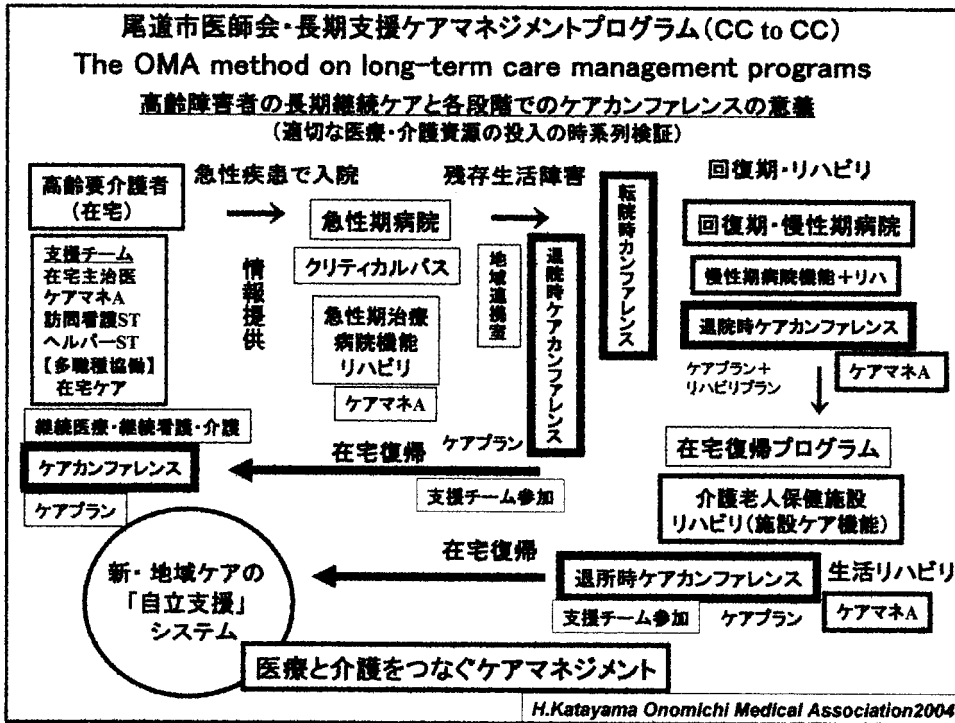
外来患者平均年齢 **73.66**歳
(2006年6月30日)

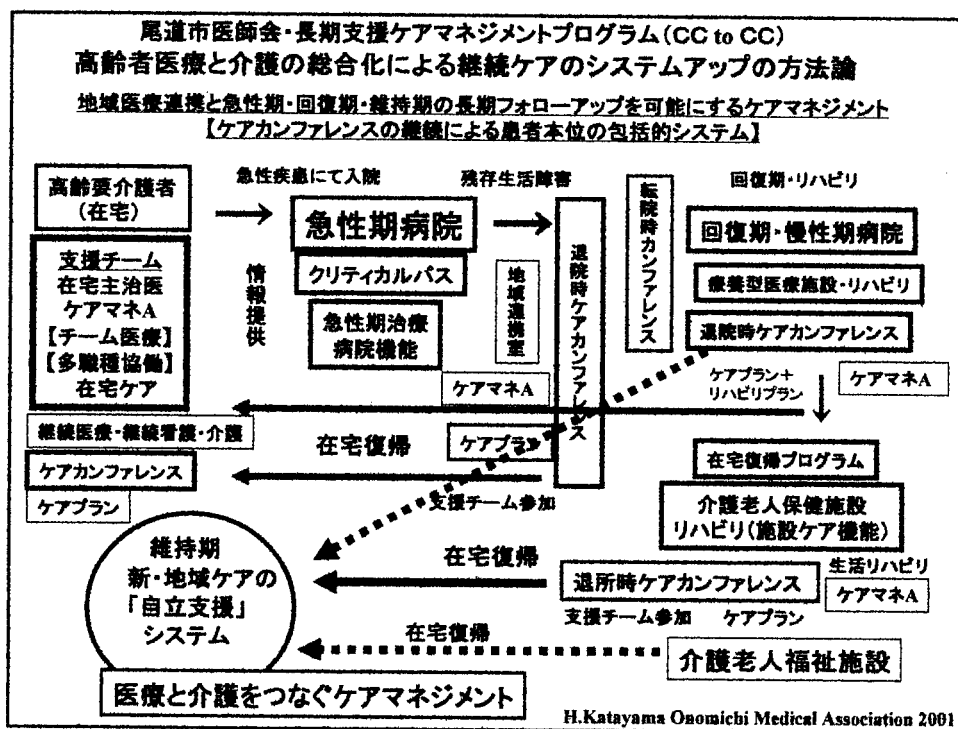
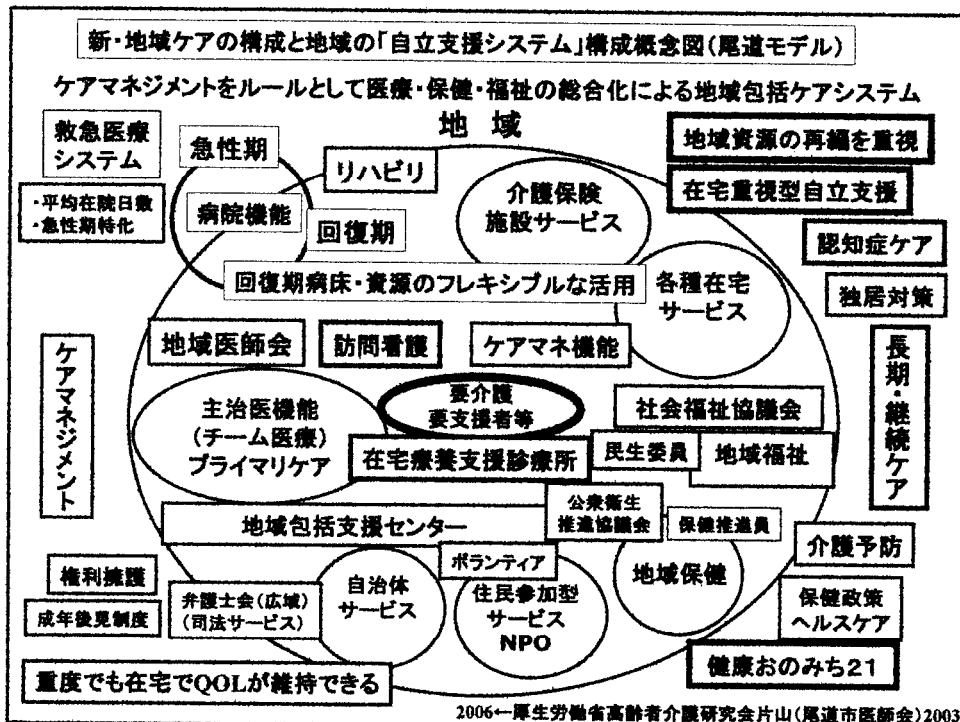
在宅患者平均年齢 **83.2**歳

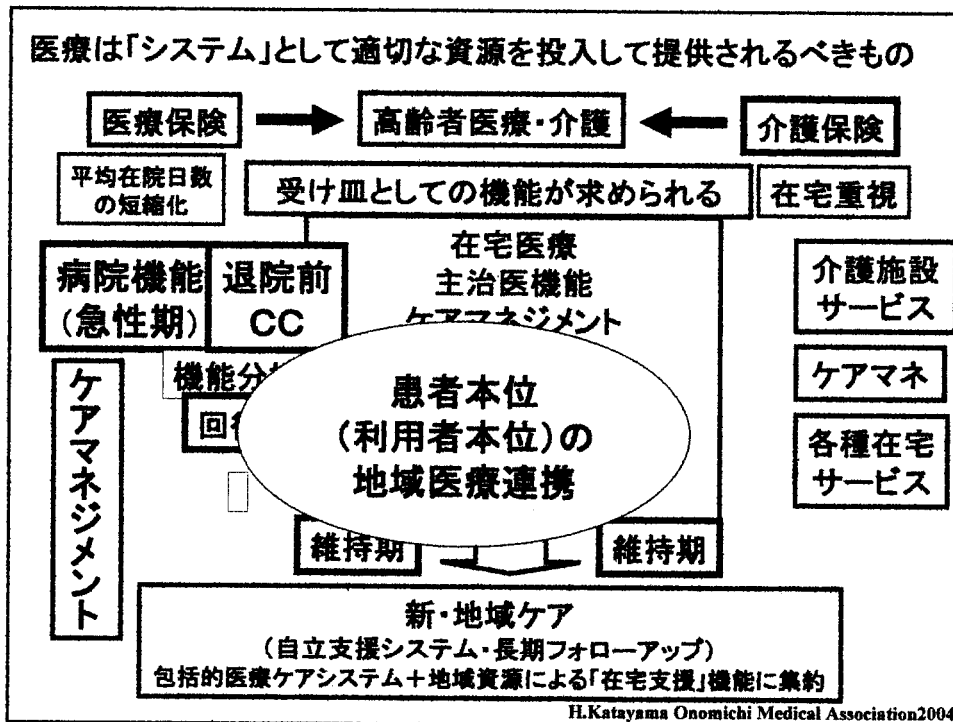
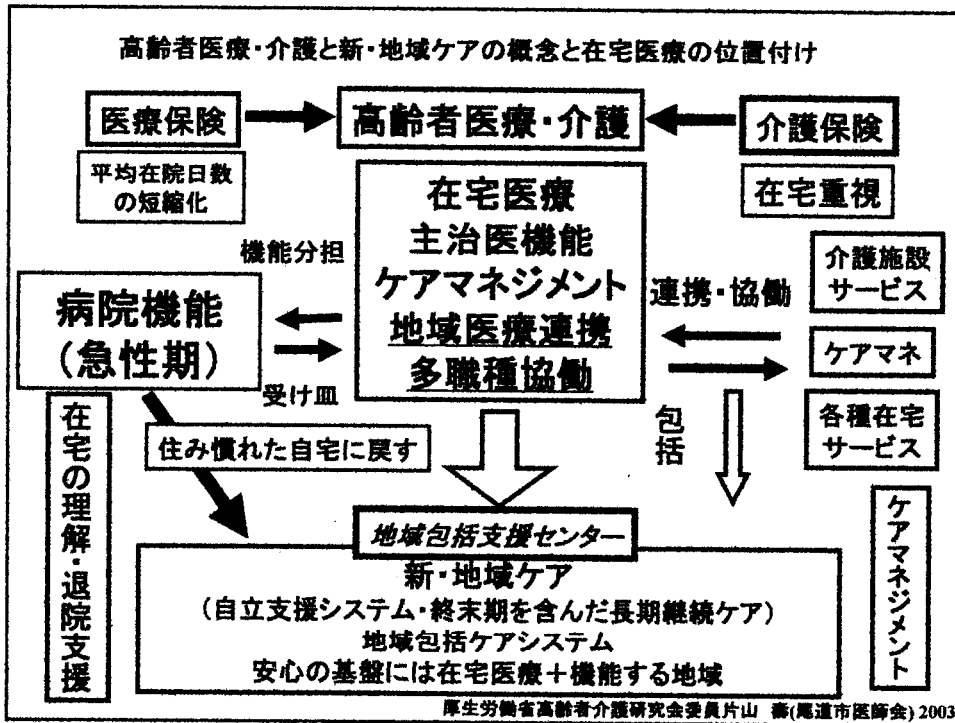
医院開設 1898年
(内科)

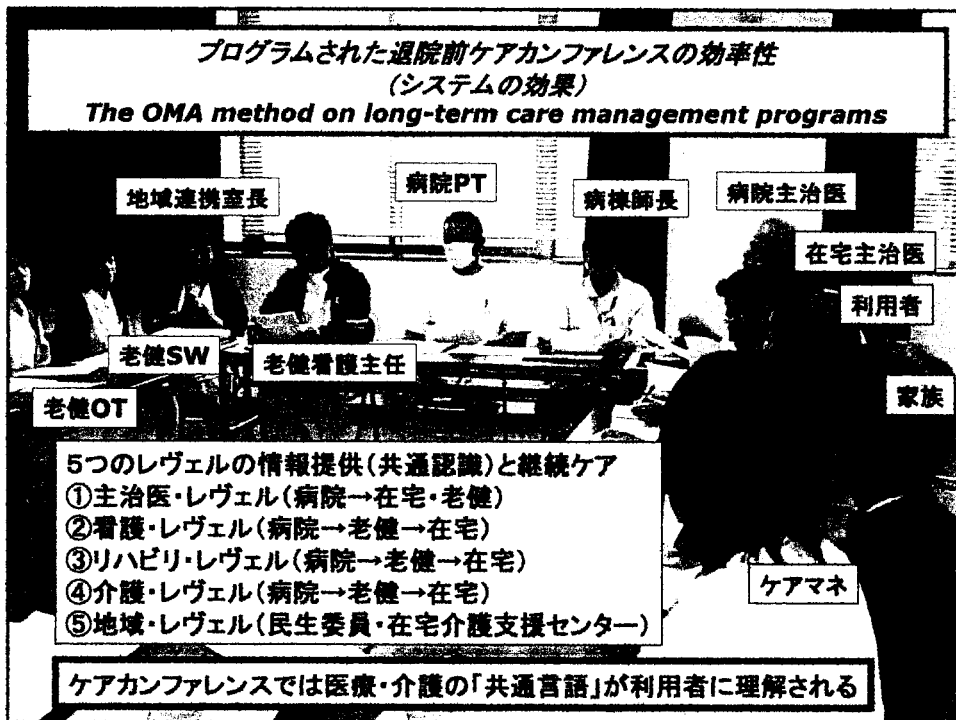
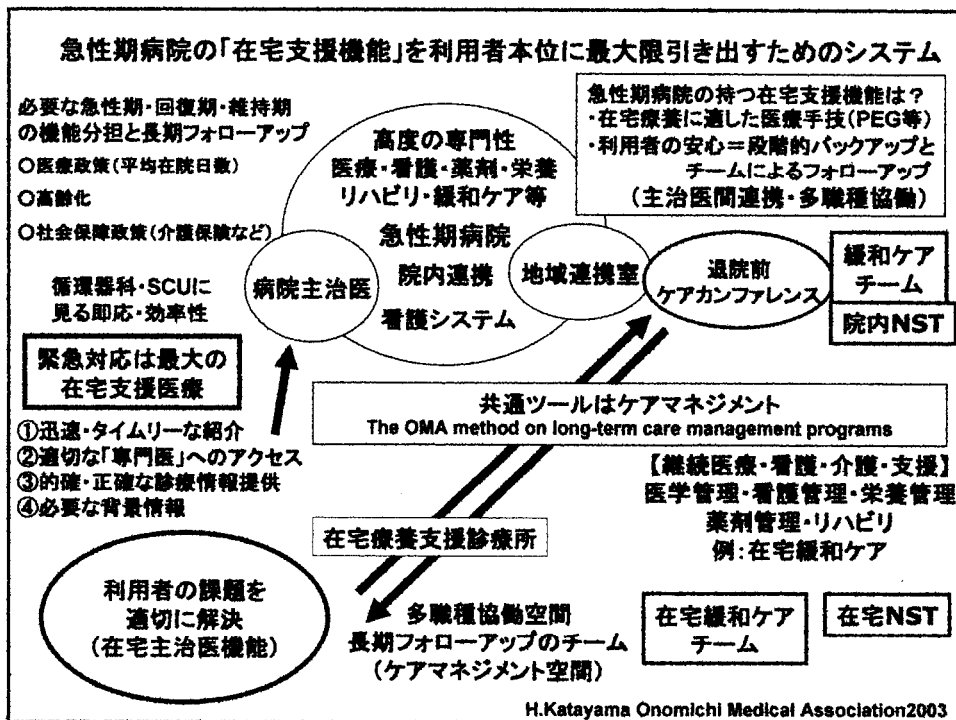
勤務医歴: 10年(東京・1974~84)
開業医歴: 23年(尾道・1984~)

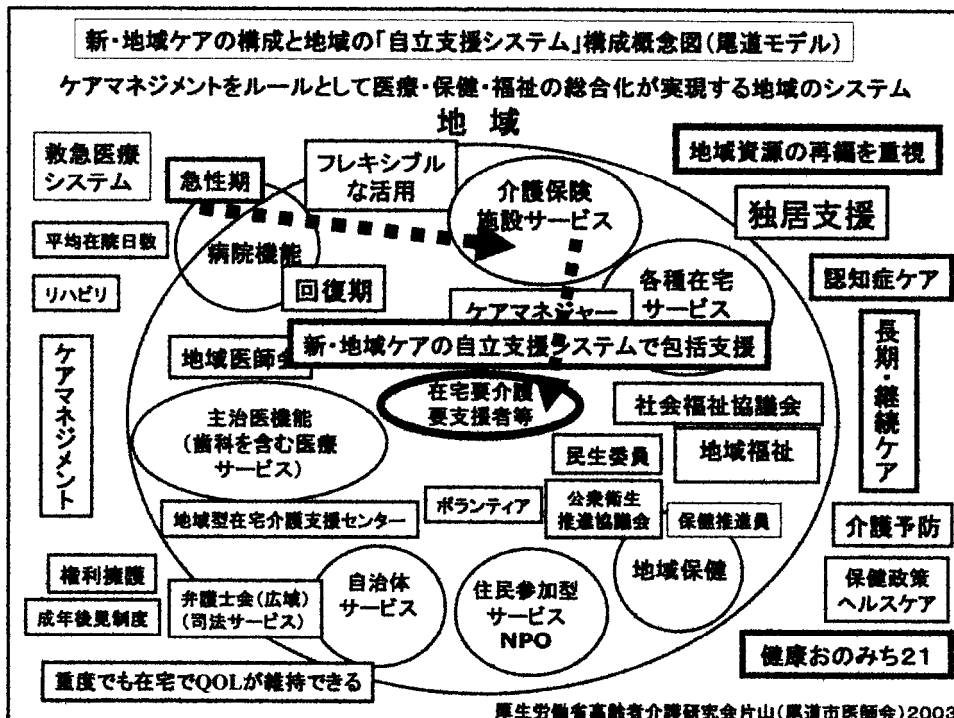












ケアカンファレンスの効果と高齢者医療・介護の将来

主治医のケアマネへの全面的支援 → 利用者の安心

『高齢化の更なる進展 → 高齢者医療・介護における包括的サービス提供モデルとして重要』

必要条件 → 在宅医療の整備・推進

◎退院前ケアカンファレンスは急性期病院を変える

○退院前ケアカンファレンスは医療を「患者本位にひきつける」効果

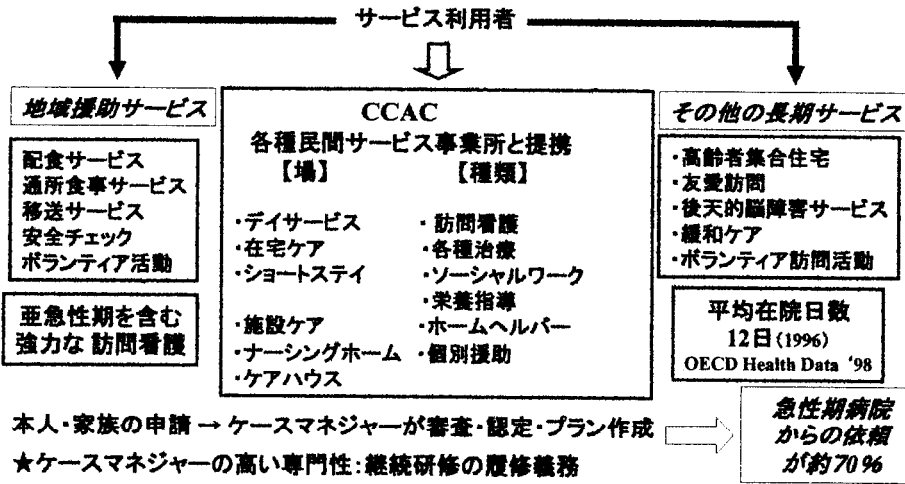
介護保険前に在宅多職種が一定の業務(ケアカンファレンス)として、利用者支援の共通認識のもと、急性期病院内・病棟に集合して、一つのプラン(ケアマネ作成)を合議したか？
(退院患者がこのようなサービスを受けたことがあったか？)

The OMA method on long-term care management programs と、新・地域ケアが対応するナチュラルな末期(主治医機能)

H.Katayama Onomichi Medical Association 2003

トロント(オンタリオ州)の CCAC (community care access center)

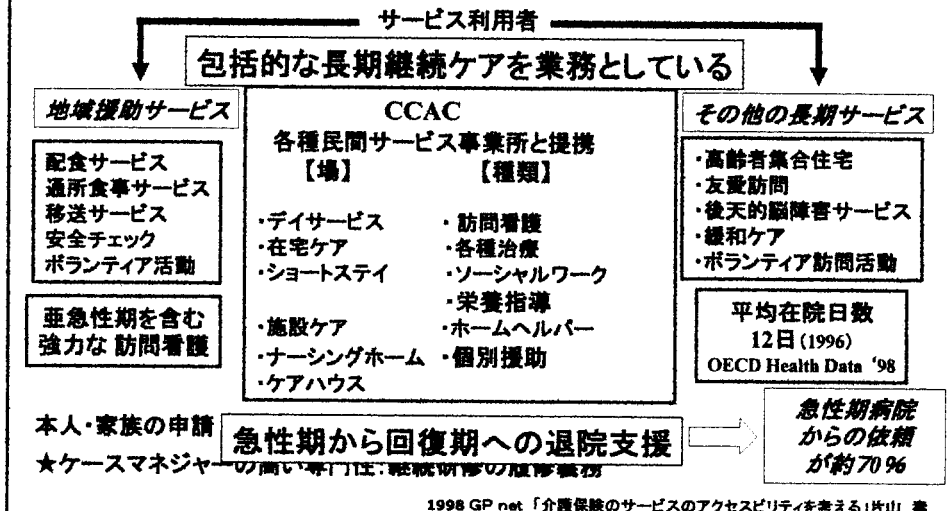
トロント市(人口230万人)に38カ所(97年)の非営利独立法人のCACが設置されて市民のサービス利用(地域ケア)の便宜をはかるケースマネジャーが配置されている。
1964年より全域に設置、市内40カ所のサービス事業体と契約、個別のケアマネジメントのセンターとして機能、公正・適正なサービス提供の監視者の役割(全年齢対象)



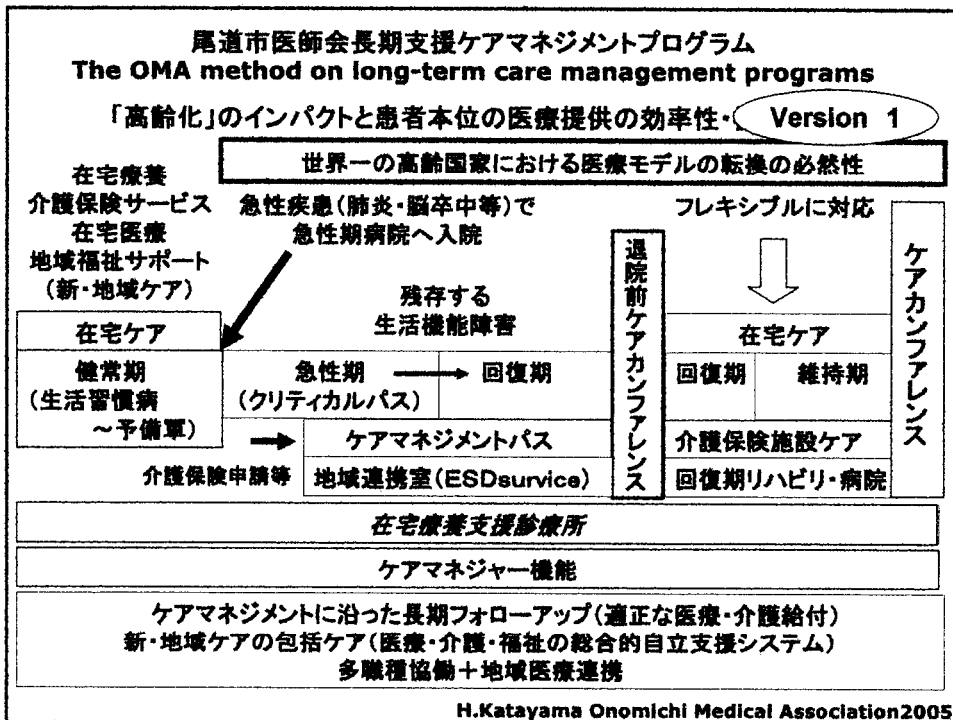
1998 GP net 「介護保険のサービスのアクセスビリティを考える」片山 壽

トロント(オンタリオ州)の CCAC (community care access center)

トロント市(人口230万人)に38カ所(97年)の非営利独立法人のCACが設置されて市民のサービス利用(地域ケア)の便宜をはかるケースマネジャーが配置されている。
1964年より全域に設置、市内40カ所のサービス事業体と契約、個別のケアマネジメントのセンターとして機能、公正・適正なサービス提供の監視者の役割(全年齢対象)



1998 GP net 「介護保険のサービスのアクセスビリティを考える」片山 壽



- 尾道市医師会高齢者医療ケアシステム整備・基本コンセプト1994**
The basic concept for the aged people medical care system
 (高齢化の進む医療圏の将来に対応する地域医師会の指針)
- 高齢者医療・ケアの総合化により尾道市医師会医療圏の医療モデルの転換を目指す
- (1) 医師会事業を連続的に展開するための必要な基本コンセプト
 訪問看護ST(95)・介護老人保健施設・在宅介護支援センター(97)・24時間訪問介護(98)
 - (2) 最も重要なレベルは「主治医機能」と設定
 主治医機能3原則(94)→患者本位の多様な連携手法→多職種協働の推進を担う
 - (3) 主治医機能を最大限に発揮できる環境整備が医師会事業
 一馬力の開業医が在宅医療・ケアにおいて最大の機能を発揮できるサービス資源の整備
 - (4) ほどよくシステム化された医療サービス提供体制の整備が基盤
 尾道市医師会救急蘇生委員会(91)をベースとした開業医と急性期病院の地域医療連携
 - (5) 包括的にして連続性のあるシステムづくり
 ケアマネジメントをツールとした長期継続ケアを可能にする地域包括ケアシステム(新・地域ケア)
 (The OMA method on long-term care management programs)
 - (6) 医師会の事業に対する信頼性の確立・精度管理
 尾道市医師会方式ケアカンファレンスの地域配備で高いケアマネジメントのレベル・福祉との合体
 - (7) 医師・多職種参加の系統的な研修講演会の開催による共通認識の醸成
 尾道市医師会高齢者医療福祉問題講演会・尾道市医師会ケアマネジメントセンターの継続研修システム
- H.Katayama Onomichi Medical Association 1994

尾道市医師会高齢者医療福祉問題講演会(1994～)

- 1994年 児玉博行、小澤 勲、山口 昇「これからの保健・医療・福祉」他
- 1995年 目崎育弘、中谷比呂樹、石本宏明「21世紀の医療と介護」他
- 1996年 岡本祐三「介護保険のすべて」小澤 勲、佐々木健、他
- 1997年 藤本直規、並河正晃、岡本祐三、U・アンベッケン、M・イヴ・ハマー(SWD)他
- 1998年 香取照幸「介護保険と医療サービス」、山崎成人、恒藤 暁、村井淳志他
- 1999年 三浦公嗣、岡本祐三、西山正徳、恒藤 暁、藤本直規、M・ファイン(AUS)、他
- 2000年 土肥信之(2回:リハビリテーション)、三浦公嗣、山口 昇、岡本祐三、他
- 2001年 秋山昌範・田中 滋 「21世紀の医療と介護の方向性」、岡本祐三、香取照幸「介護保険が目指したもの」小宮英美、池田直樹、高村 浩・田中 滋(9月) 李 啓光(10月)、前沢政次(11月)
- 2002年 米満弘之(1月)池田直樹(2月)岡本祐三(4月・8月)、井影昭弘(3月)「夢の長寿社会・医療と福祉の一元化」高村 浩(5月・6月)土肥信之(6月)杉山孝博(7月)・李 啓光(9月)・武田文和(12月)「がんの痛みと緩和ケア」
- 2003年 高村 浩(1月)杉山孝博(2月)田中 滋(2月)・石原 謙(5月)本間 昭(7月)・大谷 順(9月)「NSTの実践」北波 孝(10月)・李 啓光(11月)永田久美子(12月) 田中 滋(12月)
- 2004年 榊原彰夫(1月)・(5月)「摂食嚥下リハビリテーションのストラテジー」香取照幸(2月)高村 浩(6月)「痴呆介護に必要な法的知識と判例」本間 昭(4・7・8・9・11月)「プライマリケア医に必要な痴呆早期診断技術」中村秀一(7月)「介護保険の制度見直しと高齢者介護の課題」中村健二(10月)「DPC」大谷 順(10月)「NST②」湯上 聖(10月)「長期栄養管理と微量元素」、田中 滋(11月)「介護サービスと情報開示」三浦公嗣(11月)「新予防給付の考え方と介護予防」
- 2005年 星宇明元(4月)「地域の高齢者における「仮の要介護状態」への対応」木村達臣(5月)、橋本洋一郎(6月)、川越博美(6月)、三浦公嗣(7月)「訪問看護の将来と課題」原 勝剛(8月)「地域医療計画と地域医療連携」、岩永勝義(9月)「熊本方式の地域医療連携」杉山みち子(9月)「栄養ケア・マネジメント」、梶尾雅弘(9月)、香取照幸(11月)「地域包括支援センター」田中 滋(11月)、本間 昭(11月)「認知症市民公開講座」+尾道市医師会認知症早期診断システム
- 2006年 渡辺由美子(3月)「介護報酬の改定の考え方と在宅医療の診療報酬」島崎謙治(3月)「子育て支援と国の政策」東口高志(4月)「NSTの運営の実態と長期栄養管理」中谷比呂樹(4月)「障害者自立支援法と障害者政策の方向性」、河野和彦(5月)「認知症診断と治療の効率化」、永田久美子(6月)「認知症の人の地域包括ケア」三浦公嗣(6月)「介護保険の見直しと課題」、星宇明元(7月)「仮の要介護状態を防ぐために(2)」河野和彦(8月)「認知症診断と治療の効率化(2)」、武田文和(9月)「がんの痛み治療とエンドオブライフケア」辻 哲夫(10月)「医療制度改革の方向性と重点施策」、河野和彦(11月)「認知症の問題症例の検討」田中 滋(12月)「介護保険の将来と医療制度改革」

尾道市医師会高齢者医療福祉問題講演会(1994～)

- 1994年 児玉博行、小澤 勲、山口 昇「これからの保健・医療・福祉」他
- 1995年 目崎育弘、中谷比呂樹、石本宏明「21世紀の医療と介護」他
- 1996年 岡本祐三「介護保険のすべて」小澤 勲、佐々木健、他
- 1997年 藤本直規、並河正晃、岡本祐三、U・アンベッケン、M・イヴ・ハマー(SWD)他
- 1998年 香取照幸「介護保険と医療サービス」、山崎成人、恒藤 暁、村井淳志他
- 1999年 三浦公嗣、岡本祐三、西山正徳、恒藤 暁、藤本直規、M・ファイン(AUS)、他
- 2000年 土肥信之(2回:リハビリテーション)、三浦公嗣、山口 昇、岡本祐三、他
- 2001年 秋山昌範・田中 滋 「21世紀の医療と介護の方向性」、岡本祐三、香取照幸「介護保険が目指したもの」小宮英美、池田直樹、高村 浩・田中 滋(9月) 李 啓光(10月)、前沢政次(11月)
- 2002年 米満弘之(1月)池田直樹(2月)岡本祐三(4月・8月)、井影昭弘(3月)「夢の長寿社会・医療と福祉の一元化」高村 浩(5月・6月)土肥信之(6月)杉山孝博(7月)・李 啓光(9月)・武田文和(12月)「がんの痛みと緩和ケア」
- 2003年 高村 浩(1月)杉山孝博(2月)田中 滋(2月)・石原 謙(5月)本間 昭(7月)・大谷 順(9月)「NSTの実践」北波 孝(10月)・李 啓光(11月)永田久美子(12月) 田中 滋(12月)
- 2004年 榊原彰夫(1月)・(5月)「摂食嚥下リハビリテーションのストラテジー」香取照幸(2月)高村 浩(6月)「痴呆介護に必要な法的知識と判例」本間 昭(4・7・8・9・11月)「プライマリケア医に必要な痴呆早期診断技術」中村秀一(7月)「介護保険の制度見直しと高齢者介護の課題」中村健二(10月)「DPC」大谷 順(10月)「NST②」湯上 聖(10月)「長期栄養管理と微量元素」、田中 滋(11月)「介護サービスと情報開示」三浦公嗣(11月)「新予防給付の考え方と介護予防」
- 2005年 星宇明元(4月)「地域の高齢者における「仮の要介護状態」への対応」木村達臣(5月)、橋本洋一郎(6月)、川越博美(6月)、三浦公嗣(7月)「訪問看護の将来と課題」原 勝剛(8月)「地域医療計画と地域医療連携」、岩永勝義(9月)「熊本方式の地域医療連携」杉山みち子(9月)「栄養ケア・マネジメント」、梶尾雅弘(9月)、香取照幸(11月)「地域包括支援センター」田中 滋(11月)、本間 昭(11月)「認知症市民公開講座」+尾道市医師会認知症早期診断システム
- 2006年 渡辺由美子(3月)「介護報酬の改定の考え方と在宅医療の診療報酬」島崎謙治(3月)「子育て支援と国の政策」東口高志(4月)「NSTの運営の実態と長期栄養管理」中谷比呂樹(4月)「障害者自立支援法と障害者政策の方向性」、河野和彦(5月)「認知症診断と治療の効率化」、永田久美子(6月)「認知症の人の地域包括ケア」三浦公嗣(6月)「介護保険の見直しと課題」、星宇明元(7月)「仮の要介護状態を防ぐために(2)」河野和彦(8月)「認知症診断と治療の効率化(2)」、武田文和(9月)「がんの痛み治療とエンドオブライフケア」辻 哲夫(10月)「医療制度改革の方向性と重点施策」、河野和彦(11月)「認知症の問題症例の検討」田中 滋(12月)「介護保険の将来と医療制度改革」

地域一体型研修
(多職種協働)

在宅主治医に必要な
あらゆる知識の研修
特に制度論・政策
(専門医学以外の知識)

高齢者医療介護
に対応するためには
多様な知識が必要

尾道市医師会のシステムを支える全職種対象の連続研修
(タイムリーな知識の注入(選抜した講師陣))

尾道市医師会の「主治医機能」の3原則

2003 New version

1. Multiple functions

2. Flexibility

3. Accountability

originalは1994年の基本コンセプトの中核に提示

尾道市医師会の「主治医機能」の3原則

1994 original version

1. Multiple functions

2. Flexibility

3. Mind of Welfare

1. multiple functions

・在宅医療・ケア機能

ハイテク系在宅医療・在宅終末期ケア
24時間対応・リハビリテーション・緩和ケア
認知症の早期診断・早期ケア(2003.8)

・ケアマネジメント機能

各種社会サービス・介護保険制度対応
生活支援機能・ケアカンファレンスによる課題解決

・システム連携機能

チーム医療・ケア、地域医療連携・福祉との連携
多職種協働の推進・包括的ケアの視点

患者本位の医療としての主治医機能
「プライマリケア・レベル」の拡大、多様な連携の駆使
【患者本位の地域医療連携・長期継続ケア・多職種協働】
The OMA method on long-term care management programs

2. flexibility

①利用者や家族の状況の理解と長期フォローアップ

継続的な (Long term care) な関わりの中で個人の生活障害
と介護環境 (介護者の身体的・社会的・経済的側面) の理解
ケアマネジメントによる在宅療養支援・環境整備・危機管理

②的確にしてタイムリーなサービス選択・アクセス

的確な状態把握により、利用者に必要な医療・ケア資源
各種サービスへ責任を持ってタイムリーにアクセスする機能
包括的支援に必要な専門家 (民生委員等) との日常的連携の整備

③利用者本意のサービス提供

ケアカンファレンスにおけるアドボカシー機能
介護保険のサービス提供に対する主治医モニタリング
ケアカンファレンスによる多職種協働の推進・高度化
全人的対応 (個人の尊厳・QOL重視)